

日本体育・スポーツ哲学会第46回大会のご案内(第二報)

時下ますますご清祥のことと存じます。

日本体育・スポーツ哲学会第46回大会につきまして、下記の通り、ご案内申し上げます。
ご参加のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

- ・ 日程：2024年8月24日(土)、25日(日)2日間
- ・ スケジュール：今後、変更がある場合がございます。

24日(土)

- 11:00~12:00 理事会
- 12:00~ 学会大会受付
- 12:50~13:00 開会式
- 13:00~13:50 会長講演
講演者：関根 正美 (日本体育大学)
- 14:00~16:00 一般発表 (1会場) 演題番号 1, 2, 3, 4
- 16:15~18:00 シンポジウム
「競技者が“一瞬にかけける美的体験”の追究」
コーディネーター：佐藤 洋 (明星大学)・松宮 智生 (清和大学)
- 18:30~20:30 研究交流会

25日(日)

- 9:00~11:00 一般発表 (3会場) 演題番号 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16
- 11:15~12:15 台湾招聘講演
「The value basis of competitive sports: A zero-sum theory perspective」
講演者：Tien Mei Hu (National Taipei University of Education)
- 12:15~13:15 お昼休み
- 13:15~15:15 一般発表 (3会場) 演題番号 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27
- 15:30~16:30 総会
- 16:30~16:40 閉会式

- ・ **会場：岡山大学 津島キャンパス 24日：共育共創コモンズ 25日：教育学部講義棟**
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学教育学部
アクセス ①JR岡山駅西口広場2階タクシー乗り場からタクシーで約7分
(「岡山大学津島キャンパス東門まで」もしくは「岡山大学教育学部まで」と伝えれば会場至近まで乗車できます)
②JR岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗り、「岡大西門」(約7分)で下車、バス停から徒歩約5分
③JR津山線 法界院駅 下車 徒歩約10分 (津山線は本数が少ないのでご注意下さい)

・ **予稿（発表抄録）の提出期日 7月31日（水）**

発表申込を行った方は以下の執筆要項を厳守のうえ作成し、Word データと PDF データを第 46 回大会実行委員会宛て、電子メール（jsspspe46@gmail.com）にて送付ください。

1) 用紙：A4 判用紙，横書き二段組み，上下左右に 25mm ずつの余白を設けて作成してください。

2) 演題・氏名等：

①演題は上段の第 1 行目または第 2 行目を用います。副題がある場合は改行しダッシュ（-）で挟み記入します。

②演題は 12 ポイント文字を使用し，フォントは MS ゴシックで強調します。

③演者氏名と共同研究者氏名は第 4 行目に記入します。所属機関は氏名の後ろに括弧（ ）で囲み記入します。

3) キーワード：10 ポイント文字を使用し，第 6 行目に 2～5 語の範囲で記入ください。

4) 本文：

①10.5 ポイント文字で第 7 行目から記入します。フォントは MS 明朝を使用ください。

②文字数は概ね 24 字×44 行×2 段とします。

③図表や写真などを使用する場合は，必ず枠内に収めてください。

・発表時のパソコンについて：パワーポイント等を用いる場合には，各自のパソコンをご準備して下さい。プロジェクターとの接続端子は VGA，HDMI になります。

・発表資料について：発表資料を用いる際には各自のご判断で印刷物をご準備下さい。事前に申込み頂いている参加者数は約 60 名です（7 月 1 日時点）。

・宿泊について：各自でご準備ください。岡山駅近辺には多数のホテルがありますが，予約が埋まる場合もありますのでお早めにご準備ください。

・昼食について：2 日間とも学食は営業の予定です。ただし，会場の建物から学食までは若干の距離があります（徒歩 5 分程度）。会場内で食事を取って頂いても構いませんが，会場近くにコンビニエンスストアはありませんので，あらかじめご準備されることをお勧めします。

・問い合わせ先：

実行委員長：高橋 徹（岡山大学）jsspspe46@gmail.com または t.takahashi@okayama-u.ac.jp

・シンポジウムの概要

シンポジウムテーマ：競技者が“一瞬にかける美的体験”の追究

コーディネーター：佐藤 洋（明星大学）、松宮 智生（清和大学）

趣旨：

アスリートが勝利や成功のために「その一瞬にかける」ということを考えていきたい。時には命（安全）さえも顧みず、意図的に競技の文脈に染まることもある。それは、アスリートの姿そのものであり、アスリートの実存としても捉えることができる。アスリートは競技の世界における特殊な経験を持っているのである。「今しかない」「ここに全てを賭ける」という瞬間は、人間にとっては一般的な衝動かもしれないが、タガが外れたような競技への取り組みは一種の特殊性を帯びているし、観衆も何かを感じている。古代コロッセオの残酷物語（剣闘士・奴隷対決、猛獣狩り等）で熱狂した人々はそうした特殊な瞬間に快を見出すのだろうし、現代の格闘技でもノックアウトに盛り上がる瞬間は格闘家の「一瞬に全てをかけた」闘いに観る側が特殊な瞬間を見出したからこそ熱狂するのである。それは審判が試合を止めるジャッジをしようとする刹那にも関係するだろう。格闘家が一瞬にかける瞬間、審判もそこに「何か」への同調があるようにも思われる。

さらに言えば、ロス五輪柔道代表の山下泰裕選手とモハメド・ラシュワン選手の闘いはフェアプレー精神を学ぶ教材になっているが、それも「一瞬に全てをかけた」ことを我々が見出せるからである。他にも、箱根駅伝でフラフラになりながら襷を繋ごうとする選手を観て、我々が感動するのはなぜか？ 時には後何秒で繰り上げスタートという状況で、幾分の時間を無視してでも襷を繋げさせようとする審判にある心情とは何か。

以上の背景から、本シンポジウムでは「競技者が“一瞬にかける美的体験”の追究」をテーマに設定した。

年次計画：（1年目）アスリートの【人間性・ふるまい】を浮き彫りにする

シンポジスト：阿部 悟郎（東海大学）、中野 大希（筑波大学大学院）、松宮 智生（清和大学）

講演のタイトル : The value basis of competitive sports: A zero-sum theory perspective

講演者 : Tien Mei Hu (National Taipei University of Education)

Abstract:

This study uses the zero-sum theory of competition in sports philosophy to explain that in the world of highly competitive sports, elite athletes face "zero-sum games" in which they either win or lose, that is, the all-or-nothing (zero logic) of high-competitive sports. Three conclusions were obtained. First of all, the perfectionist trait of elite athletes is not some social maladaptation. On the one hand, it originates from the fierce competition environment of high-level sports competitions. The meticulous execution of regular sports training reflects the excellence of sports. On the other hand, elite athletes pursue faster, higher, stronger – together day and night, constantly moving towards and breaking through the limits of their own sports performance, reflecting the efforts of limited human beings to strive for perfection, and at the same time, it also shows the human nature which is competing with the others. Secondly, elite athletes in the world of high-competition sports are like a phoenix rising from the ashes, or like the 300 Spartans, bravely heading towards "death." This world does not allow for just having the intention of working hard or just trying to win; the latter is not enough to become a qualified competitor because when elite athletes adopt a process-centered and compensatory view of competition, high-competition sports lose their unique redemptive power. Finally, the high-competitive sports that elite athletes participate in are not the same as war. In other words, the outcome of a high-competitive sports game is not the same as a life-and-death war. The elite athletes who lose in their sports game always possess the possibility of the following sports session; in other words, the following sports session provides the elite athlete with the possibility of exceeding the result of his or her previous sports session. Therefore, in the highly competitive sports world, elite athletes need to understand the zero-sum logic involved in winning and losing in high-competition sports, especially those who are at the end of their sports careers and have failed to realize the zero-sum game positively. For elite athletes who have qualified for important events, this study applies zero-sum theory, provides elite athletes with a zero-logical value basis for competitive sports, and helps elite athletes view winning and losing in competitive sports with a positive concept.

Keywords: elite athletes; perfection; competition